

# 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博） 会場施設の全体概要について

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 施設維持管理局 鈴木 和弘

## 1. はじめに

万国博覧会とは、世界中からたくさんの人やモノが集まるイベントで、地球規模の様々な課題に取り組むために、世界各地から英知が集まる場である。

2025年日本国際博覧会（以下、「大阪・関西万博」という。）は1970年に日本、そしてアジアで初めて開催された日本万国博覧会、2005年に開催された2005年日本国際博覧会（愛知万博）に続き、日本で3回目の開催となる大規模博覧会となる。

（公社）2025年日本国際博覧会協会（以下、「協会」という。）は、大阪・関西万博の準備及び開催運営等を行い、博覧会を成功させることをもって、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献するとともに、我が国の産業及び文化の発展を目指している。

本稿は大阪・関西万博の会場施設の全体概要について説明するものである。

## 2. 大阪・関西万博の概要<sup>1)</sup>

大阪・関西万博の開催期間は2025年4月13日から10月13日の6か月となり、2,820万人の来場者を想定している。

### 2.1 大阪・関西万博のテーマおよびコンセプト

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」（Designing Future Society for Our Lives）となっており、人間一人一人が自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を国際社会が共創していくことを推し進めるものである。

近年、人々の価値観や生き方が多様化するとともに、技術革新によって誰もがこれまで想像しえなかった量の

情報にアクセスし、やりとりを行うことが可能となった。このような進展を踏まえ、健康・医療をはじめ、カーボンニュートラルやデジタル化といった取り組みを体現していくとともに、世界の叡智とベストプラクティスを大阪・関西地域に集約し、多様な価値観を踏まえたうえで諸課題の解決策を提示していくこととしている。

また、「Saving Lives（いのちを救う）」、「Empowering Lives（いのちに力を与える）」、「Connecting Lives（いのちをつなぐ）」の3つのサブテーマを通じて、テーマの実現を目指す。

テーマを実現するアプローチとして「People's Living Lab（未来社会の実験場）」をコンセプトとし、万博のスタイルをより実践的な行動の場へと進化させることを狙うため、大阪・関西万博で行われる事業のガイドラインの役割を果たす。

テーマの実現に向けた手段としては、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施していく。

#### ○世界との共創

世界各国の公式参加者がそれぞれの立場からSDGs達成に向けた優れた取り組みを持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会を描く。

#### ○テーマ実践

主催者が中心となり、様々な参加者と共創し事業を企画し、企業やNGO/NPO等、行政と共に、テーマが実現された未来社会の姿を会場内に創り出す。

#### ○未来社会ショーケース

万博会場を未来社会のショーケースに見立て、先端的な技術やシステムを取り入れることで未来社会の一端を実現することを目指す。

## 2.2 公式参加について

大阪・関西万博への公式参加者として、2025年2月時点で約160の国・地域、国際機関が参加を表明している。

## 3. 会場について

### 3.1 会場の立地

大阪・関西万博の会場は、大阪市内の臨海部に位置する夢洲（ゆめしま）である。関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港の3空港から、高速道路を利用して40分～50分程度でアクセスすることができ、神戸・京都など関西一円からの道路アクセスが充実している。

夢洲は390haの人工島であり、その中で万博の会場は南側部分の155haを占める。

大規模博覧会としては、四方を海に囲まれた初めての会場となる。世界とつながる海と空に囲まれた万博として、そのロケーションを活かした企画や発信を行っていく（図-1）。



図-1 大阪・関西万博会場 航空写真

### 3.2 会場のレイアウト

大阪・関西万博のレイアウトは図のとおりである（図-2）。大屋根リングに囲まれたエリアは、パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリアで、主動線としてリング状のメインストリートと大小の広場を設けており、ここからパビリオンにアクセスすることができるようになっている。メインストリートの上部には大屋根リングが設置されており、エリアの中央には樹木を配した広場（静けさの森）を作り、これにつながるようテーマ館を配置している。

南側のエリアには水景を活用した憩いのエリアが広がっており、水辺に面して飲食施設を配置するとともに、水上イベントの舞台としても活用することを想定している。

会場の西側の海に面したエリアには、EXPOアリーナや交通ターミナル等、大人数が滞留することのできる



図-2 会場レイアウト

開けた空間が広がっている。

## 4. 会場内の主な施設について

大阪・関西万博では、万博のテーマを実現するための場として、会場内に海外パビリオンや民間パビリオンをはじめとした様々な施設が建設された。ここでは、会場の施設について紹介する。

### 4.1 大屋根リング

「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表すシンボルとなる巨大な大屋根リングを建設された（図-3）。大屋根リングは、建築面積61,035.55㎡、高さ12m（外側は約20m）、内径約615m、幅30mの世界最大の木造建築物である。



図-3 大屋根リングの完成イメージ

構造は垂直、水平の梁と柱で構成する木造ラーメン構造となっており、接合部の一般部は貫接合となる（図-4）。

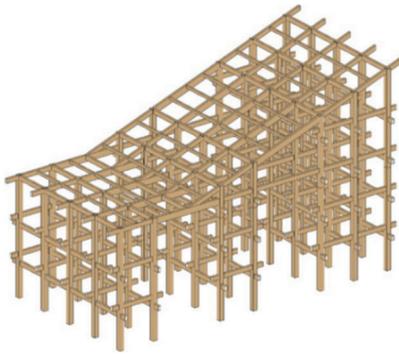


図-4 大屋根リング 架構イメージ図

大屋根リングは3つの工区にまたがっており、各工区で建設したものを最終的に一体の建築物に形成させた。

使用する木材は柱・梁は集成材、屋根材はCLT（直交集成板）であり、総量は約27,000m<sup>3</sup>で、国内産の木材は約7割である。

- ・ 木材は鉄などの金属素材やコンクリートと比較し、
- ・ 製造・加工時のCO<sub>2</sub>排出の抑制
- ・ 木材への炭素固定
- ・ 森林の再生産によるCO<sub>2</sub>吸収

などが期待でき、木造にすることにより脱炭素を実現していく。なお、万博会後は、リユース・リサイクル等、有効活用の方法を検討している。

大屋根リング下の空間は、会場内の主動線である円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用する。また、大屋根リングの屋上を通行することも可能で会場全体を様々な場所から見渡すことができ、さらに大屋根リングの外に目を向ければ、瀬戸内海の豊かな自然や夕陽を浴びた光景など、海と空に囲まれた万博会場の魅力を楽しむことができる（図-5）。



図-5 大屋根リング 夕景のイメージ

大屋根リングは、2023年6月に木組み部分の組み立てを開始し、2024年8月に木組み部分がつながった。

その後、エレベーターやエスカレーターの設置、屋上緑化等の工事を行い、2025年2月末に協会は引き渡しを受けた。

## 4.2 公式参加パビリオン

大阪・関西万博の公式参加者（参加国や国際機関）はパビリオンを出展することにより、大阪・関西万博の3つのサブテーマを通じて、テーマの実現を目指し、それぞれの立場からSDGs達成に向けた優れた取り組みを持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会の姿を描く。

公式参加者のパビリオンには以下の4つのタイプがある。

### ①タイプA（敷地渡し方式）

協会により割り当てられた敷地において公式参加者が設計し建設する建物および構造物である。

パビリオンの高さについては原則12m以内であるが、計画の自由度をもたせるため、建築面積の1/2以内の範囲であれば、17mの高さまで建築可能としている（図-6）。

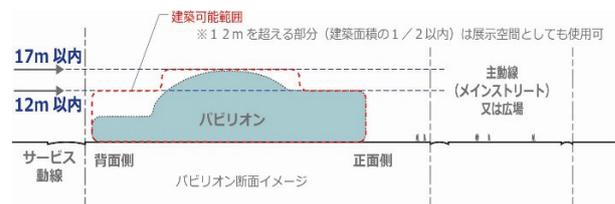


図-6 建物の高さ

### ②タイプB（建物渡し方式）

協会が建設し公式参加者に賃貸する建物で、公式参加者が内装と外装の造作及び自身の展示品の設置を行うことができるもの。

### ③タイプC（共同館方式）

協会が建設し公式参加者にパビリオンとして提供する建物で、公式参加者はその建物の一部区域を借り受け、その区域を造作し自身の展示物の設置を行うことができるもの。

### ④タイプX（建物渡し方式）

協会が建設し公式参加者に賃貸する建物で、公式参加者が内装と外装の造作、外構工事及び自身の展示品の設置を行うことができるもの。

協会はタイプB、タイプC及びタイプXのパビリオンを建設した。

また、協会は公式参加者がパビリオンの設計、施工に

あたり遵守すべき項目や遵守することが望ましい事項を取り纏めたガイドラインを発出し、各パビリオンはこれに基づき建設された。<sup>2)、3)、4)</sup>

### 4.3 日本館

日本館は大阪・関西万博の開催国館として、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」および3つのサブテーマを体现し、来場者の心に響く体験を与えることを目指している。

また、日本館は国連が定めたSDGsを踏まえた、2030年より先の未来社会における国際的なビジョンであるSDGs + beyondを体现するパビリオンとすべく、日本独自の観点から、SDGsに関するメッセージを発信する。

### 4.4 自治体館

大阪府と大阪市が連携し、REBORNをメインテーマに「人」は生まれ変わる”、“新たな一歩を踏み出す”という意味を込め、「健康」という観点から未来社会の新たな価値の創造に取り組む「大阪ヘルスケアパビリオン」を出展している。

また関西広域連合は「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」をテーマに「関西パビリオン」を出展し、その構成自治体のうち、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、兵庫県、鳥取県、徳島県と連携団体の福井県、三重県の9府県が出展に参加している。

### 4.5 民間パビリオン

1970年の大阪万博において、世界各国のパビリオンと並んで大きな存在感を示したのが民間パビリオンである。これまで日本で開催された万博において、日本経済を牽引してきた多くの企業・団体が民間特有の自由な発想や構想力で時々のテーマを解釈し、時代性の反映と共に未来への期待を膨らませる魅力ある展示を行ってきた。

今回の大阪・関西万博では、日本電信電話株式会社、電気事業連合会、住友 EXPO2025 推進委員会、パナソニック ホールディングス株式会社、三菱大阪・関西万博総合委員会、吉本興業ホールディングス株式会社、株式会社パソナグループ、特定非営利活動法人ゼリ・ジャパン、株式会社バンダイナムコホールディングス、玉山デジタルテック株式会社、一般社団法人日本ガス協会、飯田グループホールディングス株式会社及び一般社団法人大阪外食産業協会の13者がパビリオンを出展している(図-7)。



図-7 民間パビリオン会場配置図

### 4.6 シグネチャーパビリオン (テーマ館)

テーマ事業に掲げた8つのテーマ「いのちを知る」「いのちを育む」「いのちを守る」「いのちをつむぐ」「いのちを拓げる」「いのちを高める」「いのちを磨く」「いのちを響き合わせる」について、それぞれの分野のトップランナーでもあるテーマ事業プロデューサー8人が、個性や創造力を遺憾なく発揮し、個々が担当するテーマを「シグネチャーパビリオン」で表現する(図-8)。

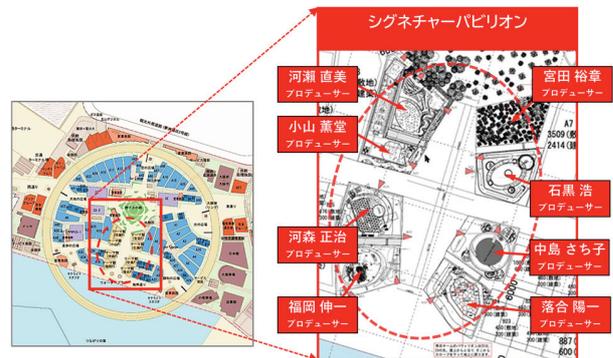


図-8 シグネチャーパビリオン (テーマ館) 配置図

### 4.7 催事施設

大阪・関西万博では、会期中に様々なイベントが開催される。このため、協会は以下のような催事施設を建設し、これらを活用して地域の物産や文化、観光等に関するイベント (PR イベント、展示商談会等) を開催する(図-9)。



図-9 催事施設 位置図

## ○ EXPO アリーナ「Matsuri」

大型ライブイベント、映像上映、祭り等の屋外イベントを実施することを想定。

## ○ EXPO ホール「シャインハット」

劇場型ホールで音楽、演劇、芸能、未来型エンターテインメント、テーマフォーラム等のイベントを開催することを想定(図-10)。



図-10 EXPO ホール「シャインハット」

## ○ EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」

ナショナルデー・スペシャルデー式典、音楽、演劇、芸能、未来型エンターテインメント、テーマフォーラム等のイベントを開催することを想定。また、茶道、華道、歌舞伎、能、句会等の日本の伝統文化のイベントを会期中入替えて開催することを想定(図-11)。



図-11 EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」

## ○ EXPO メッセ「WASSE」

様々な展示会を会期中入替で開催することを想定。

## ○ ギャラリー-WEST、ギャラリー-EAST

アニメ、ファッション等の展示会を会期中入替で開催することを想定。

このほかに、小規模なステージを会場内に数か所整備し、音楽、トークイベント、祭り等を開催していく。

## 4.8 静けさの森

万博会場の中心部には、会場の喧噪の中であって、ひととき静かで落ち着くことができる場所として「静けさの森」が整備された(図-12)。静けさの森は周辺より小高い地盤高で計画しており、植栽帯に起伏を付けることで、平坦な場合より緑量を感じられるようにしている。樹木については、新たに購入する樹木のほか、日本万国博覧会記念公園(通称「万博記念公園」)をはじめ、大阪府内の公園等から将来間伐予定の樹木などを移植し森を構成している。樹木の本数は約1,500本植樹されており、静けさの森には、水景施設(池、水盤)も整備されている。



図-12 静けさの森 イメージ

#### 4.9 若手建築家が設計を担う施設

会場内の「休憩所」「ギャラリー」「展示施設」「ポップアップステージ」「サテライトスタジオ」「トイレ」の計20施設の設計については、1970年開催の大阪万博と同様に2025年大阪・関西万博を若い世代の活躍・飛躍のきっかけとなるよう、将来が期待される若手建築家を対象に募集を行った。

「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトの下、SDGs（持続可能な開発目標）達成につながる、意欲的かつ大胆な提案をしてもらい、個性豊かで魅力的な博覧会施設を創出している（図-13）。

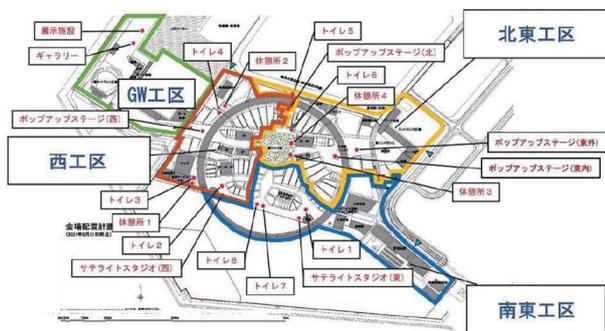


図-13 若手建築家 設計施設

#### 5. 終わりに

20年ぶりに日本で開催される国際博覧会にたくさんの方に会場へお越しいただき、大屋根リング屋上からの眺望や世界各国が出展する海外パビリオン、また各催事施設で開催される様々なイベント等、世界を体感していただきたい。

#### 【参考文献】

- 1) 2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）基本計画（公社）2025年日本国際博覧会協会 2020.12
- 2) パビリオンタイプA（敷地渡し方式）の設計に係るガイドライン付録編（公社）2025年日本国際博覧会協会 pp.12-13, 2021.7
- 3) パビリオンタイプA（敷地渡し方式）の工事・解体に係るガイドライン（公社）2025年日本国際博覧会協会 pp.12-13, 2022.6
- 4) パビリオンタイプX（建物渡し方式）に係るガイドライン（公社）2025年日本国際博覧会協会 pp.12-13, 2024.1